

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0177100286		
法人名	特定非営利活動法人NPO社会福祉振興会		
事業所名	グループホームななかまど歌志内館		
所在地	〒073-0406 歌志内市字中村3 4-1 (電話) 0125-42-2121		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年10月22日	評価確定日	平成21年11月27日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	6月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	20 人	常勤	15人,	非常勤 5人, 常勤換算 15.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄筋	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000~28,000 円	その他の経費(月額)	15,000~30,000 円
敷金	有() 円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(10月6日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	71歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	砂川市立病院、勤医協神威診療所、中村歯科診療所
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は平成16年に開設し、豊かな自然と利便性に優れた立地にある。医療機関や温泉施設が近接し、敷地には畑や花壇等があり、利用者と近隣住民の交流の場になっている。利用者の生活に配慮しながら、研修生の受け入れや情報の発信などの取り組みに力を入れ、積極的な職員研修や向上心を育てることでケアの質の向上を目指している。利用者のケアに当たっては記録や根拠を大切に、多角的な視点と検討を行うとともに医療機関等との連携を図っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で改善項目は提起されていないが、事業所独自に見直しを行い、事業所の特徴を活かし、さらに向上するための検討を行っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を行う前に勉強会を行い、評価の意義や取り組みについて再確認を行っている。毎日3項目ずつ取り上げ、長い期間をかけて自己評価に取り組むことで、職員が自らのケアを振り返り、改善につなげることができるよう努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、事業所の運営や外部評価結果の報告等のほか、非常時の話し合いなど、多くの議題を取り上げている。利用者の生活の向上のため、多方面との連携を大切に、知識や情報を共有して、それを利用者へ還元する取り組みを行っている。地域とは非常時の覚書を交わし、相互に助け合う関係を築いている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情の内部、外部の受付先を周知し、意見箱を設置している。職員は、家族の来訪時や電話の際に知りたいこと等を把握して、できるだけ伝えるよう心がけている。家族にはきめ細かい報告を行い、疑問に思うことについて家族と一緒に勉強したりする中から、さらに思いを汲み取るなど、家族の意向を大切にしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の行事に参加し、事業所を交流の場として提供するなど、相互交流を図っている。さらに、老人クラブや近隣の介護施設とも交流をしている。事業所は利用者と地域社会のパイプ役として様々な機関との連携を模索し、地域密着型としての機能を地域住民の生活にも役立てることを目指している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を作成する際には運営推進会議でも議題として取り上げ、地域密着型サービスとしてどのような事業所を目指すのかを話し合い、職員と共同でつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に職員が理念を復唱し、理念に沿ったケアを行うため、ユニットごとに毎月の目標を職員が立てるなど、理念を実践に活かす取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が地域の交流の拠点となるよう、様々な取り組みを行っている。地域の祭りや行事への参加のみならず、事業所の立地を活かし利用者が地域の一員として生活を継続できるようにきっかけ作りや事業所の専門性を活かした情報の発信などを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、毎朝3項目ずつ取り上げ、その意義や日々のケアを振り返りながら職員全員で取り組んでいる。職員一人ひとりの能力に合わせ、ヒントを交えながら具体的な改善に結びつけるための考える力を養成することで、提供するケアの質の向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域や行政から広く参加を得て開催している。事業所の運営状況の報告や地域との連携など幅広い議題に対応している。課題を共有し、参加者とともに活発な意見交換を行うことで、事業所のサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所から市役所の担当者への働きかけを行い、地域密着型サービスとして行政との意見交換や協働に力を入れている。日常的に事業所と行政が双方向に意見交換をできる体制があり、導入された制度や知識などを補完しあう関係を構築している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、書面や電話報告のほかに、希望や状況も踏まえ携帯動画やメール等、様々な方法で対応している。担当職員が事前に家族が知りたいことを把握し、毎月の利用者の写真が掲載された便りを作成するなど、きめ細かな対応を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所が家族とともに利用者の生活を支えるという視点に立ち、家族等の意見を積極的に取り入れるよう努めている。また、家族が知りたい介護方法や制度について相互に学び意見を受け、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職により担当者が変わる場合は、事前に馴染みの職員が引継ぎを行うなど、影響を少なくするよう配慮を行っている。法人内で異動があった場合でも、適宜職員が訪問するなど、利用者に影響が出たり、関係が途切れないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務の中で生じた疑問を取り上げた内部研修や伝達研修を行っている。事業所として人材育成計画を立て、職員に目標やスキルアップを示すことにより達成感や仕事への意欲につながるよう支援を行っている。外部研修や資格取得の希望には、シフトを調整したり、既取得者がアドバイスをを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、認知症ケアネットワーク等を通じて行っている。交流会や勉強会を通じて、独自に行っている取り組み事例を他の事業所に発信するなど、交流の牽引役としても大きな役割を担っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に家族や本人と面談し、事業所について丁寧な説明を行い、無理なく利用を開始するよう話し合いを行っている。サービスの利用開始の際も、必要に応じて利用前に訪問したり、家族が宿泊するなど徐々に馴染めるよう職員が連携して支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者同士は、生活を共にするパートナーという意識が芽生えており、職員はそれを支えている。また、職員は人生の先輩である利用者から学び、より良い関係となるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は専門職としての気づきを大切にし、利用者がその日一日をどのように過ごしたいかを丁寧に聞き取っている。楽しく安全に過ごすことや、事業所外での活動や人間関係のつながりの意向も踏まえ実現に向けて取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケアとその記録をもとにアセスメントを行い、本人と家族の意向を汲み取りながら介護計画を作成している。利用者の目線を大切にしながら、職員と家族、利用者本人が一体となって目標に取り組めるよう具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画のモニタリングを行い、見直しの必要性について検討を行っている。定期的なアセスメントによる介護計画の変更と、必要な場合は随時の見直しを行っている。家族や医療機関等とも連携し、今後の見通しを含めて詳しい説明を行い、希望や意見を盛り込みながら介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方の利用者が多いため、利用者が生きがいを持って生活できるよう細やかな対応をしている。利用者や家族の希望をかなえるために事業所の専門性を踏まえ、行政や地区などの様々な機関とも連携を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望をもとに、医療機関との連携を行っている。かかりつけ医の受診の支援を行うとともに、定期的な往診と緊急時に対応できる体制を整え、利用者の健康管理に活かしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族と段階的に話し合いを行うなど、それぞれの、その時々希望の把握と事業所の方針の共有に努めている。担当医との話し合いや、チームとして利用者と家族を支えるための実践的な研修を行い、職員の育成も図っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所では、利用者の自尊心に配慮するため、会議などを通し職員間で注意を促しながら日々のケアを行っている。利用者の心を傷つけないように、職員だけでなく、利用者に接する人にも気を配り、一丸となって利用者を支える取り組みを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、その日を楽しみ過ごすための希望を「思いやりプラン」として叶えるよう支援を行っている。会話の中から察したり、聞き取った内容を共有し、職員が協力して実現するチームケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対面キッチンで職員が利用者と会話をしながら調理を行い、五感を刺激し食事が楽しみになるよう工夫をしている。食事の準備や後片付けなどは、利用者の能力と意思を尊重しながら共同で行っている。また、利用者の嗜好を把握し、食事に反映している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望を尊重し、入浴の時間や好みの温度、職員の調整などを行っている。入浴の拒否がある場合は声掛けに工夫をし、足浴などから入浴に繋げるなど、利用者の意思を大切に、気持ちよく入浴できるよう支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴の把握やアセスメントなどから、利用者の生活の中で培ってきた特技や趣味を事業所で活かせるよう利用者それぞれの活躍の場を作っている。事業所には小動物や畑などがあり世話をしたり、季節ごとの楽しみを分かち合ったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内には畑や花壇があり、ベンチで自然を感じながら休憩を取ることできる。近隣には商店があり、散歩の途中に立ち寄るなどして、なじみの関係を築いている。利用者の希望をかなえ、できるだけ戸外に出られるよう支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は行っていない。利用者の気分や状態を職員が申し送り時に共有し、見守りを行っている。利用者が外出の意向がある場合には安全に配慮し、声を掛け付き添いを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者も交え、毎月訓練を行っている。地域からの訓練の参加や運営推進会議を通じた関係機関への協力要請も行っている。地域との災害時の相互協力の協定を交わすなど、様々な角度から検討し備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に配慮した献立を採用し、利用者の習慣や状況に合わせて美味しく食べられるように配慮している。季節や運動量、入浴などの一日の生活状況も加味し、水分量が不足しないように支援し、記録を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	熱帯魚や亀などを飼育したり、季節の花を飾るなど、家庭的な雰囲気を大切にしている。ホットカーペットなど、冬期間の寒さの対策を行いながら椅子を各所に配置し、気分によって利用者同士で過ごしたり、他の人の気配を感じながら一人で過ごしたりすることができるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が思い思いの家具を持ち込むなどして、その人らしい部屋になるよう工夫している。仏壇のお供えや月命日の支援など、安全に配慮しながら必要な支援を行っている。		

※  は、重点項目。